

西周「人智論」新資料

西周については、近年まで福沢諭吉、加藤弘之らの蔭にかくれて顧られることが少なかったが、麻生義輝、大久保利謙両氏によつて精力的に資料の収集、調査が行われて来た結果、漸く注意が向けられるようになった。然るに、西の著書の半ばは猶、依然として書誌学的処理すら不完全な状態に置かれている。たとえば、「美妙学説」「社会党論」等の著作年時の疑問（麻生氏の明治五年説等）、或いは著作目録のみにあつてその原本が不明の例、草稿のみでその定稿がない例、西周と宮中御談会との関係の未調査等がこれである。前記中「美妙学説」の成立年時については先に之を明らかにし得たが、更に新資料「人智論」を発見したので翻刻、紹介したい。

西周は哲学者として普通知られているが、明治維新という変革期における百科全書派ともいふべく、西洋近代科学の各門に亘つてその移植に務めている。そこに日本の伝統と西洋近代科学との接点の最初にして最も典型的な型を見ることが出来る。その意味で日本の近代化を論ずる場合、避けて通ることのできない作家ではないかと思う。

当時、哲学から分れようとしていた心理学についても、彼はその最初

の紹介者たる榮譽を担つている。²⁾即ち、明治七年の「致知啓蒙」における「心理学」³⁾の紹介につづき、明治八年の「ヘブン心理学」の訳出がこれである。

西自身の心理学に関する著述としては、生前「心理学ノ一斑」が「東京学士院雑誌」（明治十九年）に掲載されたのみであつた。そして歿後、遺された自筆原稿から「人智論」「情智関係論」の二著が麻生氏によつて公刊された。⁴⁾同二著については「西家書類断片」に、

御談会（先帝陛下御前ニ於テ）口演、人ノ性ヲ論シ、智、情、意ノ三部トナスコトヲ「概論シ」智ノ部（人智論ハ草案ノ一部アリ）「情ノ部」意ノ部

とあり、又、麻生氏によつて初めて公刊された草稿本「人智論」冒頭にて前ノ御談会ニ嘗テ人ノ性理ヲ論シ……

とある様に「人智論」外は宮中御談会のものであることは間違いない。この内「人智論」について述べれば、現在公刊されている「人智論」かたかな交り自筆本は、草稿本とはいつても、途中、脱落箇所があり、細部に亘つては意味不分明箇所が多い。一篇の主旨も完結されずに終つ

ている。これに対し、こゝに紹介する新資料「人智論」は西の自筆ではないが、先の草稿本を基に増補され、又、草稿本にある脱落箇所も埋められている。原書は永く明治天皇御手許（侍従職）にあつたが、大正年間、当部に御下附になつたもので、恐らく宮中御談会の口演につかわれた西の自筆原稿の写しと思われる。原書には日付けもなく、又、奥書等もないので何時の御談会の時のものか同書からはわからない。ただし「人智論」定稿本としてよいであろう。

注

(1) 拙論・西周「美妙学説」成立年考証（国文学解釈と教材の研究、44年5月号）

(2) なお、サイルが明治7年11月から12年4月まで開成学校において心理学（この時はまだ哲学といつていた）を講じ、その教科書にヘブンの「心理学」を使用して居たと伝えられるが、「心理学」「知覚」「意識」「感覺」等の用語は西周の造語とされている。

(3) 西周は「Psychology」を性理、学と、この時は訳している。「性理」とはいうまでもなく王陽明の「性理の学」を採つたものであり、文化移植についての彼のパターンを示している。

(4) 麻生義輝編「西周哲学著作集」（昭和8年）

〔翻刻〕

人智論

前時、嘗テ人ノ性ヲ論シ、智、情、意ノ三大別トナスコトヲ論シタリ。今、斯ニハ其中ニ智ノ一部ヲ概論スヘシ。

前論ニ略、挙ケシ如ク、智ノ能力ハ素ヨリ人心ニ具ハル能力、即チ性ナリト雖トモ、其本ツク所ハ五官ニ外ナラス。目ニ視テ色ヲ知り、耳ニ

聴テ声ヲ知り、鼻ニ嗅テ香臭ヲ知り、舌ニ味ヒテ味ハヒヲ知り、支体ニ触レテ寒熱、疎密、軟硬、方円ヲ知ル等、是智ノ依テ開ケ始マル所以ニシテ、之ヲ名ケテ感覺ト云フ。

然ルニ此感覺、直チニ智タルニ非ス。感覺ハ人獸、共ニ之ヲ同ウスル者（中ニハ禽獸ノ感覺、人ニ勝ル者アリ）ニテ動物ノ通性ナリ。故ニ此感覺ヨリ取り得タル者ヲ記性ニ付シテ過去ノ事ヲ現在ニ保存シ、又、未來マテ遺スニ在リ。故ニ記性アレハ同一物ニ逢フ毎ニ前時ニ認メシ者ナルコトヲ知ルナリ。

然ルニ此記性モ亦、小虫ハ知ラス、少シ大イナル動物ニハ亦、具ハル者ニテ（犬ノ能主人ヲ記スルカ如シ。象ノ如キハ十分ノ記性アリト云ヘリ）、是亦、智ト謂フ者ニ非ス。

然ルニ智ノ作用ハ斯ニ尽キスシテ、感覺ニテ知り記性ニテ認メタル物ニ就テ、其原因ヲ推シ知ル上ニ在リ。即チ目前ノ事ヲ結果トシ、其前ノ事ヲ原因トシテ相結ヒ、合スル能力ナリ。譬ヘハ、暖カナリト云フ結果ハ太陽ノ昇リタリト云フ原因ト相結ヒ、寒シト云フ結果ハ雪降レリト云フ原因ニ帰スルカ如ク、人事ニテ云ヘハ、家屋美麗ナリト云ヘハ、其家富ムト云フ原因ニ由リ、其国治ルト云ヘハ、其政善シリ云フ原因ニ帰スルカ如シ。事ノ細大トナク、人ニハ其結果ヲ推シテ其原因ニ溯ル性アリ。即チ俗語ニ訳カ分ルト云フ事ニテ道理ヲ弁ヘル性ナリ。之ヲ理性ト名ケテ人ニノミ特別ニ賦セラレタル天性トシ、人智ノ本質トス（是、昔時ノ説ニテハ、人ノミニ具ハリ禽獸ニハ絶テ此性無シト謂ヘリ。然ルニ

近世ノ説ニテハ、分量ノ多少ハアレトモ絶テ無シトハ謂フ可ラスト云ヘリ)

然ルニ、此理性ト云フ者、素ヨリ天性ニ具ハルト雖トモ、之ヲ發達セシムルハ必ス經驗、練熟ニ依ラサレハ理性具ハルト雖トモ發達スルコト能ハス。即チ經驗ニ依テ理性ノ發達スル一事例ヲ挙クレハ、今、賢愚ト無ク老幼ト無ク何人ニテモ明日、明後日、來月、來年ノアルコトヲ知りテ、其知ルコト他事ト異ニシテ少シモ疑惑スルコト無ク其胸裏ニ的確ナルヘシ。然トモ、明日以後ハ、元來未來ニ屬シテ、之ヲ昨日、一昨日、前年ト云フ、既ニ過去ニ屬シタルコト知ルニ比スレハ自ラ差別アルヘシ。然ルニ今、人曾テ之ヲ疑フコト無ク、明日ノ有ルヘキヲ知ルコト、猶昨日ノ有リタルヲ知ルカ如シ。是、其故何ソヤ、吾人、生來之ヲ經驗ニ徴シテ曾テ一日ト雖モ其無キコトヲ知ラサレハナリ。故ニ人心ニ於テ此理性ノ本ヲ為ス者ハ皆此經驗ニ由ルナリ。故ニ人心ノ智ハ聖人、賢人ノ大知識ト雖トモ此經驗ニ依テ理性ヲ練磨シ、過去ノ經驗ニ則リ現在ニ善キ源因ヲ施シ惡シキ源因ヲ避ケ、以テ未來ニ於テ善キ結果ヲ招キ、惡シキ結果ヲ絶ツニ外ナラス。人間ノ行事、細大ト無ク智ニ屬スル者ハ、皆源因、結果ヲ推窮シテ真ノ連絡ヲ得ルニ在リ。若、過去ノ經驗ヲ忽カニシ誤リテ現在ニ惡シキ源因ニ從事スレハ、惡シキ結果ヲ招クコト必定ニシテ避ク可ラサルノ勢ニ至ル。之ヲ不知ト謂フ。又、其結果ヲ推窮シテ源因ヲ得ルモ、得ル所、其結果ノ真ノ源因ニ非ル時ハ真ノ連絡ヲ失フ。譬ヘハ水旱等ノ災ヲ彗星ノ源因ニ帰シ、日蝕ヲ人君ノ不徳ニ帰スル

如キハ、皆真ノ連絡ヲ失フ者ニシテ之ヲ惑溺ト謂フ。

然ルニ、此性理上ノ智ト云フ者、大略右ノ如シト雖トモ又、之ヲ再別シテ識トオト二部トナス。此兩者何人ニテモ之ヲ兼ネ具フト雖トモ必ス長短無キコト能ハス。識ニ富ミテ才ニ拙キ人アリ、才ニ饒カニシテ識ニ短カキ人アリ。譬ヘハ、漢ノ文帝ノ如キハ識ニ長スルノ人主ト謂フヘク、宋ノ徽宗ノ如キハ才ニ饒カナレトモ識ニ短カシト謂フヘシ間、又、才識兼備ノ人アリ。唐ノ太宗ノ如キハ是ニ庶幾ス。總テ識アルノ人ハ大事ニ任スヘク、才アル人ハ芸術、細事ニ長ス。譬ヘハ文章、書画百般ノ技芸ハ才アリテ能之ヲ成シ、法制、政略等ノ事ハ識アリテ能之ヲ成スヘシ。故ニ識ニ長スルヲ賢ト稱シ、才ニ長スルヲ才子ト云フ。又、相反シテ諸ノ乏シキヲ愚ト云ヒ、才ニ短カキヲ不肖ト謂フ。古來ヨリ此別然タリ。然トモ平常ハ稍、長短アレトモ之ヲ兼ネサル者ナク、唯、從事スル所ノ學術、事業ニ依テ大イニ逕庭ヲナスニ至ルハ亦經驗ノ然ラシムル所ナリ。

然ルニ此才ト識トノ由テ別ル所ハ何レノ点ニ有リヤト云フハ是、性理上ノ一問題ニシテ、近世ノ説ニ拠レハ、諸ハ專ラ頭腦、思慮ノ作用ニ出テ、才ハ頭腦、思慮ノ作用無キニ非スト雖トモ各部神經ノ作用ニ由ルト見エタリ。是、人身ニ具スル自動力ト相混スル者ニテ、譬ヘハ、書画ヲ能クスルハ腕臂ノ神經ニ其能力備ハリ、歌謠ヲ能クスル者ハ喉舌ノ神經ニ其能力備ハルカ如シ。西洋ノ樂器、ピアノホルトヲ彈スル者ノ如キ、口ニテハ他人ト談話ヲナシツ、手指ニテ之ヲ彈スルニ少シモ曲調ヲ失ハ

サルカ如シ。才ハ自動力ト相合シテ、初メ意識ニ因テ作スコト後ニ意識ニ開フヲ待タサルカ如シ。此自動力ハ人皆之ヲ有スル者ニテ今、人一定ノ処ニ行カムト欲スレハ、其方向ヲ定ムル時ニ僅カ意識ニテ思慮スルヲ覺ユレトモ、既ニ一タヒ足ヲ挙レハ自然ニ行動スルカ若シ。又、物ノ目睫ニ触ル、時ハ忽チ目ヲ閉ツレトモ意識ニ関セサルカ如シ。是、自動力ハ頭腦ニ関セス。機會ニ投シ自然發動スル者、人ノ才ト云フ者、初メハ經驗、練熟ニ依テ意識ニ感スト雖トモ竟ニハ局部ノ自動力ト相混スル者ナルコト明カナリ。此自動力ハ、生類ノ下等ナル者ニ至リテハ尤モ著明ニシテ、譬ヘハ蜈蚣ヲ半断スレハ首尾ノ半体、各両方ヘ走り去ルカ如ク、又、蝦蟇ノ頭部ヲ切り放チテ後、其足尖ヲ刺ス時ハ足ヲ縮ムルカ如キ、皆其証ナリ。

斯ニ亦、人ノ才ト云フ者、アクトニヤク自動力ト相混合スルヨリ、禽獸ノ本能インセンスンダクトト云フ者、人ノ才ト類似スル所アリ。昔時ハ、禽獸ハ唯本能アリテ智ハ唯人ニノミ存スト云フ説ナリシカ、近世ノ發明ニテハ本能モ智ノ一部トシ、本能ハ限リアル智、智ハ限リナキ本能ナリト云ヘリ。此本能ト云フ者、之ヲ列スレハ、蜘蛛ノ網ヲ作り、蜂ノ蜂房ヲ造ル類ニテ、其二十四角ト六角トノ割合ハセハ巧ミナル器械学者ト雖トモ此上ヘニ出ルコト能ハサルナリ。総テ蜘蛛ノ類ニハ此類ノ本能殊ニ著シク、或ハ陷阱ヲ作り他虫ノ陥ルヲ窺ヒ、或ハ待ち伏セノ室ヲ作り他虫ノ其近辺ニ徘徊スルヲ捕フル者アリ。又、蜂蟻ノ類ノ如キハ群居スルヲ以テ人間社会ト同シク、自ラ君臣又ハ役員ノ如キ定マリ有リテ冬時ノ為ニ儲蓄ヲ盛ニスル

等、頗ル人類ニ均シキ所アリ。凡テ此等ノ事ハ微細ナル水虫ヨリ巨大ナル禽獸ニ至ルマテ各、其餌食ヲ獲ルノ具ト己レヲ保護スルノ具ト天然ニ具ハリ。又、伝嗣、蕃殖ノ方法モ各種ニ備ハリ、其本能ニ依テ知ラス識ラス其作用ヲナスコト、見エタリ。

此等、皆智ノ一部ニテ識ニハ類セサレトモ、才ニ類スル者ト謂フヘシ。故ニ唯一事ニ限局シテ之ヲ他事ニ推及スルコト能ハサル耳。海狸ビーワールト云フ獸サリ、平常、海浜ニ住棲シ、樹枝、芦葦等ヲ集メテ能水ヲ除ケ屋舎ヲ作ル。然ルニ之ヲ捕ラヘ獸園内ノ屋舎中ニ置クニ、樹枝等ヲ与フレハ其中ニ屋舎ヲ作ル。是、既ニ人工ノ屋舎中ニ在レハ、其中ニ屋舎ヲ作ルモ要無キヲ知ラサルナリ。是、本能ノ限局セル所ニテ、人ノ以テ万物ノ靈タル所以ハ、カノ理性ヲ練磨シテ既往ヲ推シ将来ヲ知り、以テ時ト処トニ從カヒ之ヲ活用スルニ在ルナリ。

(終り)